

ウルトラファインバブル脱色効果（濃縮実験）

実施日時：平成30年8月5日18時～20時

場所：いつて研究所

創生実験：加圧ポンプにて**2.8気圧水**（水道水）を当社初期試作品、UFB発生装置（ステンレス）に通し、**18リッター**タンクに送り、**3600秒**（1時間）循環させた。
室温30度程度であったが、50度程度の水温と成った。



実験装置正面



実験装置背面



創生UFBのレーザー観察

性能確認：**茶渋（日本茶）**のこびりついた2個のコップにそれぞれ水道水および創生2時間後のUFB（ウルトラファインバブル）水を注ぎ**8時間**後それぞれ透明瓶に採取した。

観察結果：



茶渋のこびりつき状態



左が水道水 右がUFB水、



透明瓶での観察 左が水道水 右がUFB水



白色コップでの観察左が水道水 右がUFB水

*いずれも創生後**12時間**後に撮影したものである。

*レーザー照射で水道水に比べ、多数のバブルが存在していることが判る。

*また左の水道水に比べ右のUFB水は、**茶渋を溶解**し、変色していることが明瞭に判る。

結論：**効能のあるUFBを含有したウルトラファインバブル水が創生されている事が確認された。**

考察：仮に40L/min（2.5気圧時の理論流量）の流量とすると

$60 \times 40 / 18 = 133$ **133倍**に濃縮を行ったことになる